

学修成果の可視化について —自分の学びの成果を見て、次の計画を立てるために—

国際文化学部 国際文化学科

1. YPU ポータル上の「学修ポートフォリオ」について

「学修ポートフォリオ」はみなさんの学びの記録として活用できるシステムです。

学びのアウトプットの蓄積が見えるように、各学期の成績評価とともに、次の機能を備えています。

- ① 卒業時まで身に付ける力(ディプロマポリシーの到達度)をレーダーチャートで見ることができます。
- ② 毎学期終了時に「ふりかえり」と「次の学期の目標」を入力し、チューター教員がコメントをします。

2. 「学修ポートフォリオ」の使い方について

YPUポータル上にある「学修ポートフォリオ」に、毎学期ごとに「振り返り」と「次の目標設定」を入力し、自己管理をする習慣をつけましょう。

- ・成績を見る時には、レーダーチャートも確認してください。
- ・前期の終了時(7 月末から 8 月上旬)に、「これまでのふりかえりのコメント」と「これからの目標」を記入してください。チューター教員が 9 月末までにコメントをフィードバックします。
- ・後期の終了時(1 月末から 2 月上旬)に、「これまでのふりかえりのコメント」と「これからの目標」を記入してください。チューター教員が 3 月末までにコメントをフィードバックします。

※学修ポートフォリオの具体的な活用については、p.3 からの全学版『学修成果の可視化について』を見てください。

3. 履修計画の作成について

受講する科目の履修登録をする際には、必ず学科の「履修モデル」(大学ウェブサイトの各学科に掲載)を確認してください。履修モデルをふまえているかどうかについては、学生調査で確認します。

本学では、主として次の3つのステップをふんで学びの成果を蓄積します。

- ① 入学後の基盤教育の学びの成果の蓄積
- ② 学部の専門教育の学びの成果の蓄積
- ③ 学科独自の学びの成果の蓄積

国際文化学科では、大学 4 年間を通して次ページのようなスケジュールで確認をします。

<国際文化学科 1 年生>

○実施、●結果公表（学生個人へ、あるいはFactbookや大学ポータル・ウェブサイトで概要等を学外公表しているもの）												
調査名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全学												
入学時調査	○	●										
授業評価				○	○	●改善案				○	○	●改善案
学修ポートフォリオ				○	○	●教員コメント				○	○	●教員コメント
学生調査							○				●	
GPS-Academic	○●										○●	
DP達成度調査										○	●	
基盤教育												
・学修成果可視化シート							○	●			○	●
・自己評価シート	○										○	●
・外部語学検定試験（TOEIC）	○	●		○	●				○	●		
国際文化学科												
・言語・留学シート（直接評価・定量）	○			○	●	○			○		●	
教職課程												

<国際文化学科 2 年生>

○実施、●結果公表（学生個人へ、あるいはFactbookや大学ポータル・ウェブサイトで概要等を学外公表しているもの）												
調査名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全学												
授業評価				○	○	●改善案				○	○	●改善案
学修ポートフォリオ				○	○	●教員コメント				○	○	●教員コメント
学生調査							○				●	
DP達成度調査										○	●	
国際文化学科												
・言語・留学シート（直接評価・定量）	○			○	●	○			○		●	
教職課程												
・教職カルテ	●				○		●				○	

<国際文化学科 3 年生>

○実施、●結果公表（学生個人へ、あるいはFactbookや大学ポータル・ウェブサイトで概要等を学外公表しているもの）												
調査名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全学												
授業評価				○	○	●改善案				○	○	●改善案
学修ポートフォリオ				○	○	●教員コメント				○	○	●教員コメント
学生調査							○				●	
GPS-Academic			○●									
DP達成度調査										○	●	
国際文化学科												
・言語・留学シート（直接評価・定量）	○			○	●	○			○		●	
・専門・卒業演習7-7 リック（直接評価・定量）					○	●					○	●
教職課程												
・教職カルテ	●				○		●				○	

<国際文化学科 4 年生>

○実施、●結果公表（学生個人へ、あるいはFactbookや大学ポータル・ウェブサイトで概要等を学外公表しているもの）												
調査名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全学												
授業評価				○	○	●改善案				○	○	●改善案
学修ポートフォリオ				○	○	●教員コメント				○	○	●教員コメント
学生調査							○				●	
GPS-Academic											○●	
DP達成度調査										○	●	
国際文化学科												
・言語・留学シート（直接評価・定量）	○			○	●	○			○		●	
・専門・卒業演習7-7 リック（直接評価・定量）					○	●					○	●
教職課程												
・教職カルテ	●				○		●				○	

学修成果の可視化について

1. はじめに（可視化する意義）
2. ディプロマ・ポリシーと学修目標について
3. カリキュラムマップの見方ーカリキュラム（教育課程）と DP、学修目標との関係
4. 学修成果の可視化の概要
5. 可視化の方法① 各授業科目における達成状況（基盤教育＋専門教育）
6. 可視化の方法② 外部アセスメントテスト
7. 可視化の方法③ 学修目標の達成度（自己評価）調査
8. 可視化の方法④ その他、学科等で設定した項目
9. 学修成果の可視化とキャリア形成
10. 学修指導、学修支援について

山口県立大学

1. はじめに（可視化する意義）

本資料は大学生のみなさんに大学全体のカリキュラムの構造や狙いについて説明し、みなさんが主体的に大学の学びを深めるようにできることを目的としています。

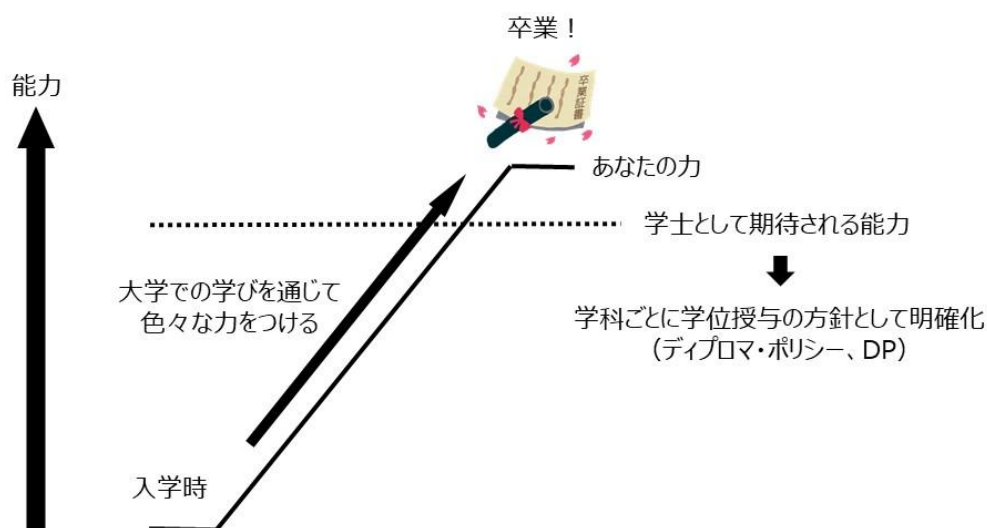
大学では卒業時に「学士」という学位が与えられます。学位とは、一定の水準の教育を受け、知識・能力があると認めるものですが、大学や学部学科によって「学士」の種類や、求める基準は異なっています。

（山口県立大学で授与される学士の種類）

学部	学科	授与される学士の種類
国際文化学部	国際文化学科	学士（国際文化学）
国際文化学部	文化創造学科	学士（国際文化学）
国際文化学部	情報社会学科	学士（国際文化学）
社会福祉学部	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
看護栄養学部	看護学科	学士（看護学）
看護栄養学部	栄養学科	学士（栄養学）

学科ごとに学士の種類・基準が異なるため、学部・学科ごとにそれぞれ学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、以下「DP」という。）を定め、卒業時の学生に期待される力を明確に定めています。学生のみなさんは大学在学中の学びを通じて DP に示された力を身に付け、卒業することが期待されています。

また、大学のカリキュラムは DP を達成できるよう逆算的に構築されています。カリキュラムに沿って学び、単位を取得することで、DP で求める能力の水準に達成することができます。



2. ディプロマ・ポリシーと学修目標について

入学時には高等学校で得た学びの中で、このような力をもった学生を求めるというアドミッション・ポリシー（AP）にもとづいた入学試験を実施しています。

入学後には、カリキュラムの編成・実施の方針（CP:カリキュラム・ポリシー）をふまえた教育内容・方法・評価方法で学びます。

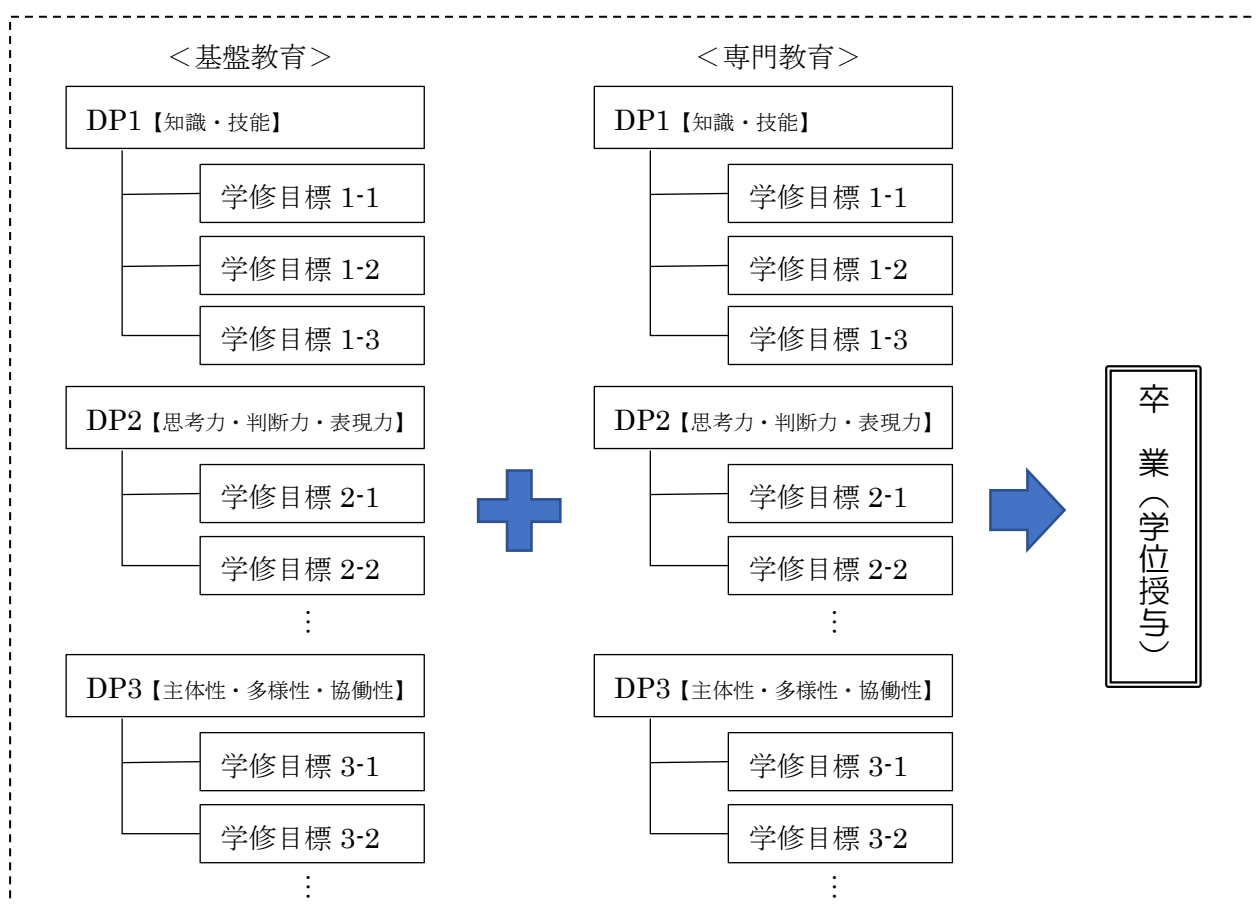
卒業までに身につける力は以下の3つの要素で構成しています。

DP の種類	説明
DP 1 (知識・技能)	基礎的・基本的な知識・技能を指し「何を理解しているのか、何ができるのか」を示すものです。
DP 2 (思考力・判断力・表現力)	知識・技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力を指し「知っていること・できることをどう活用できるか」を示すものです。
DP 3 (主体性・多様性・協働性)	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を指し、「どのように社会と関わるか」を示し、学びに向かう力や人間性に関するものです。

さらに、各 DP につき 2~3 の学修目標を定めることで、卒業時に身に付く資質・能力をより具体的に表現しています。

本学では、基盤教育と専門教育それぞれについて DP（基盤教育の場合は人材育成目標）と学修目標を定めていますので、山口県立大学の学生として基盤的に身に付ける資質・能力と、各学科の専門的な資質・能力の両方を身に付けて卒業することになります。

基盤教育の学修目標、各学科の専門教育の DP と学修目標は、大学ウェブサイトや「履修の手引」で確認してください。



3. カリキュラムマップの見方—カリキュラム（教育課程）と DP・学修目標との関係

大学のカリキュラム（教育課程）は、各大学で定めた DP・学修目標を達成するために必要な複数の授業科目により、体系的に編成されています。

各授業科目がどの DP・学修目標を達成するためにあるのかについては、カリキュラムマップによって確認することができます。カリキュラムマップで学修目標ごとに関連付けられた授業科目の必要単位を全て履修すると、その学修目標に示された資質・能力が身に付くことになります。基盤教育及び各学科の専門教育のカリキュラムマップは、大学ウェブサイトや「履修の手引」で確認してください。

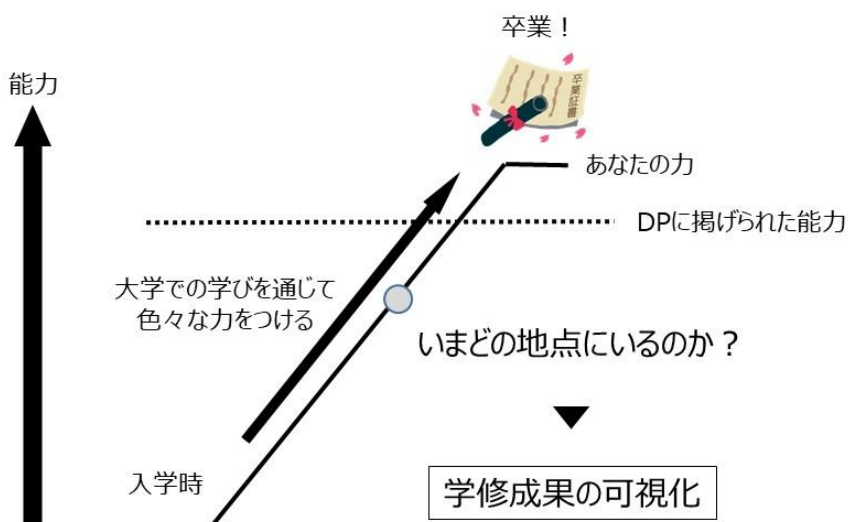
(カリキュラムマップ)

科目名	DP1			DP2	
					
	学修目標 1-1	学修目標 1-2	学修目標 1-3	学修目標 2-1	学修目標
	できる。				
〇〇論	○			○	
××学		○			
△△演習		○	○	○	
〇〇〇〇 I	○				
〇〇〇〇 II	○				
□□実習				○	
	○				

○印の付いた科目を履修することで学修目標 1-1 の資質・能力が身に付く

4. 学修成果の可視化の概要

学生のみなさんは大学在学中の学びを通じて DP に示された力を身に付け、卒業していくことが期待されていますが、その達成のために、“今どの程度まで力が身に付いたのか？”を把握することが重要です。



本学では DP・学修目標に定められた資質・能力がどの程度身に付いたのかを以下、①②③④の方法で可視化（学修成果の可視化）し、学生のみなさんの学習活動を支援しています。

(学修成果の可視化の方法)

- | |
|-------------------------------------|
| 可視化の方法① 各授業科目における達成状況（基盤教育＋専門教育） |
| 可視化の方法② 外部アセスメントテスト |
| 可視化の方法③：学修目標の達成度（自己評価）調査（DP の達成度調査） |
| 可視化の方法④：その他、学科等で設定した項目 |

5. 可視化の方法① 各授業科目における達成状況（基盤教育＋専門教育）

学修目標ごとに関連付けられた授業科目を履修し単位を修得することで、その学修目標に示された資質・能力がどの程度身に付いたのかは、以下の方法によって確認することができます。

- ・基盤教育：1年次終了後に配布されるに各自修得した成績を入力する「学修成果可視化シート」

資料に示された棒グラフの表（YPU ポータルで各自提出するもの）

- ・専門教育：YPU ポータル「学修ポートフォリオ」に表示されるレーダーチャート

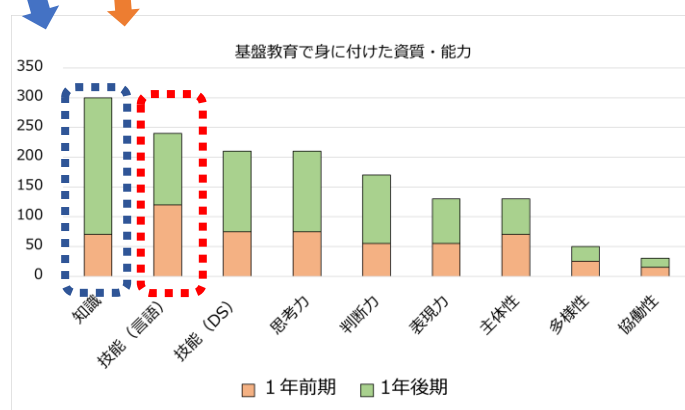
(1) 基盤教育

各授業科目が、DP1-1～3-3 の 9 つの学修目標達成にそれぞれどの程度寄与するのかの割合（%）があらかじめ設定されています。（各科目のシラバスで確認することができます）

個々の学生が履修し単位を修得した科目について、その割合に単位数と成績係数を乗じた数値の計を学期ごとに積算し、棒グラフで表現します。

科目名	DP1			DP2			DP3			計
	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	
	知識	技能 (言語)	技能 (DS)	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性	
〇〇〇	20			20	20	20	20			100
××論	50			20	20	10				100
△△演習	10	30			20	10	10	10	10	100
□□□□□			60	20	20					100

それぞれの能力ごとにどの程度身に付けたかを棒グラフで表現
（各授業科目に設定された割合 × 単位数 × 成績）



履修した科目の選択具合や成績によってグラフの形状は異なります。自らが初年次に身に付けた資質・能力を概略的に把握し、今後の学修計画を立てる場合等に役立ててください。

(2) 専門教育

各学修目標が、関連する授業科目がどの程度寄与することで達成されるのかの割合（％）があらかじめ設定されており、必要な授業科目を全て履修し単位を修得することで、学修目標が 100％以上達成されることになります。

科目名	DP1			DP2	
					
	学修目標 1-1	学修目標 1-2	学修目標 1-3	学修目標 2-1	学修目標
	できる。				
〇〇論	10		5		
××学					
△△演習				20	
〇〇〇〇 I	10				
〇〇〇〇 II	10				
				15	
□□実習		20			
計	100	100	100	100	

数値を縦に合計すると
100%になるように設定
されている

学修目標ごとに、どの程度能力を身に付けたかをレーダーチャートで表現



全ての科目を成績「可」で卒業要件を満了した場合は、最終学年のチャートは 100 となり、DP に記載された能力を修得できたとみなします。優秀な成績を修めた場合や、卒業要件以上に単位を修得した場合は、100 を超えて表示されますので、自らが身に付けた資質・能力の特性（強み等）を把握することができます。

6. 可視化の方法② 外部アセスメントテスト

本学では、外部アセスメントテストとして㈱ベネッセ i キャリア社の GPS-Academic (GPS-A) を採用しており、1 年次の 4 月と 2 月、3 年次の 6 月、4 年次の 12 月に受検します。

このテストでは、社会で必要な力を、問題解決の質と深さを左右する「思考力」、問題解決に向かうための「姿勢態度」、問題解決の力を磨くための「経験」の3つの観点で測定し、S～Dの5段階で評価されます。（思考力は総合スコアも表示）

また、基盤教育及び各学科の学修目標と、GPS-Aの測定項目との関連を以下に示す表のように整理していますので、学修目標に示された資質・能力の修得状況は、関連付けられたGPS-Aの測定結果によってみる事ができます。なお、この個人結果レポートは受検終了後すぐに各自のGPS-Aのマイページにて確認することができます。



関連する GPS-A の評価によって
学修目標に示された資質・能力の修得状況をみる事ができる

【基盤教育】

GPS-A の測定項目		DP1			DP2			DP3		
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
思考力	思考力総合スコア				○					
	批判的思考力				○		○			
	協働的思考力					○				
	創造的思考力					○				
姿勢・態度	レジリエンス								○	
	リーダーシップ							○		
	コラボレーション									○
経験	自己管理							○		
	対人関係								○	
	計画・実行									○

【国際文化学科】（2024 年度以前入学者）

GPS-A の測定項目		DP1			DP2			DP3	
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2
思考力	思考力総合スコア				○				
	批判的思考力					○	○		
	協働的思考力				○	○	○		
	創造的思考力				○				
姿勢・態度	レジリエンス								
	リーダーシップ								○
	コラボレーション							○	

【国際文化学科】（2025 年度以降入学者）

GPS-A の測定項目		DP1			DP2			DP3		
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
思考力	思考力総合スコア					○				
	批判的思考力				○		○			
	協働的思考力						○			
	創造的思考力					○				
姿勢・態度	レジリエンス								○	
	リーダーシップ							○		○
	コラボレーション								○	○

7. 可視化の方法③ 学修目標の達成度（自己評価）調査DP 達成度評価

1 年生から 4 年生まで、学年度末に YPU ポータルで学修目標の達成度（自己評価）のアンケート調査を実施します。このアンケートは本学の教育活動の点検評価及び教育改善のために行うものです。学生のみなさんは自身の学修について振り返る機会にもなりますので、回答をお願いします。1 年生から 4 年生まで学年度末に実施しますので、必ず入力してください。

（調査内容）

- ①DP1-1～DP3-3 までの学修目標の達成度に関する問い（学科毎、4 択で回答）
- ②本学の 4 つの教育理念の理解度に関する問い（4 択で回答）など

8. 可視化の方法④ その他、学科等で設定した項目

各学科の説明に従ってください。

9. 学修成果の可視化とキャリア形成

可視化された結果を確認することで自分の今の能力を客観的に確認することができ、自分の強みや弱み、課題を確認することができます。1 年次から早めにキャリアガイダンスやインターンシップ等に参加し、目標や希望する進路・就職先があれば、それに向けてどのような力を伸ばしていきたいのかを考え、その達成に向けて授業や自分の行動について考え、計画を立てていくことができます。「○○の力をもっと伸ばしたい！」と思ったときは、履修の手引きからカリキュラムマップを見て、

その力が伸びる科目を選択してみてください。

大学は自由な環境であるからこそ、自分で何の科目を学び、どう成長していきたいかを考え、主体的に自分のキャリアを考えていく必要があります。

可視化された自分の力から、自分に合う進路・就職先など、自分のキャリアプランをぜひ考えてみてください。

10. 学修指導、学修支援について

チューター教員、学年担任（主任）など、各学科の仕組みを活用してください。